

コミュニケーションを志向した教材がライティングの不安感に及ぼす効果

山梨県立大学 杉田由仁

研究の目的

- 「ライティングによる内容伝達力」の向上を図るために、まとまりのある内容や考えをパラグラフ単位で書くようなライティングによるコミュニケーションを志向した教材を開発し、授業実践を行う。
- 「ライティングにおける不安感」を分析指標として教材の効果について検証する。

ライティングにおける不安感

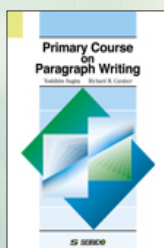
- Writing apprehension (Daly & Miller, 1975; Gungle & Taylor, 19889; Mansy & Foxall, 1992; Cornwell & McKay, 2000) 「書くという作業を過度に嫌いどうしても書こうとしない、あるいは嫌悪しないまでも自分からすすんで書きたがらない傾向」
- 「ライティング不安感テスト (Daly & Miller, 1975)」

コミュニケーションを志向した教材の有効性

- Writing block (Rose, 1980) 「書くことに対する自信を喪失し、書くことを嫌悪する状態」
- Writing block に陥ることを回避する方策
→ 書き手が本当に伝えたいと思っている感情、経験、感想などを大切に、書くことを通じて自己の考えを探求させ、明確化させていくような書くプロセスそのものを重視する作文指導が効果的ではないか。

使用した教材(テキスト)

- 『パラグラフ・ライティング基礎演習(Primary Course on Paragraph Writing)』(成美堂)
- セクション 1 (Basic Writing) : 英文ライティングの基本
- セクション 2 (Paragraph Writing)
- セクション 3 (Essay Writing)



授業展開の概要

- 第1時 “Warm-up Activity” (各ユニットのトピックに関連する写真についての英問英答)
→ “Pre-writing Activity” (パラグラフの特徴についての説明、ブレインストーミング、トピック・センテンス、文章の構成)
- 第2時 “Writing Activity” (下書き、修正・訂正、清書) → “Peer Feedback” (作文を交換して読み合い、評価を行う)

調査方法

- 2007年4月から2008年1月まで「英語 I B」を受講した大学1年生100名。G-TELP (Level 4)による英語力は36.7点(60点満点)。各調査にすべて参加した90名(男6名、女84名)を分析対象とした。
- 第1回授業(2007年4月) 事前調査
- 第2回～ テキストによる授業実践
- 第24回授業(2008年1月) 事後調査

分析方法

- ライティングの基礎力テスト(CASEC-G)により上位群(20名)、中位群(50名)、下位群(20名)を編成し、事前・事後のWA値を2元配置の分散分析にかける。
- 因子分析によりWAを測定するための質問項目の関係性を探る。

因子分析の結果

- 抽出された4因子
“Enjoyment of Writing”
“Negative Perception about Writing Ability”
“Fear of Evaluation”
“Showing My Writing to Others”
→Cornwell & McKay (2000) の因子と一致

学習者のWAについての結果

	基礎力上位		基礎力中位		基礎力下位	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
人数	20	20	50	50	20	20
平均	55.35	50.15	61.48	60.20	65.75	63.85
S.D.	11.46	10.35	12.00	11.74	10.89	10.79

Note: WA=57-Positive score + Negative score
(Max.=86, Min.=10)

学習者のWAについての結果

- 3(ライティング基礎力上位・中位・下位) × 2(事前・事後) の2要因分散分析
→ライティング基礎力 (F(2, 87)=8.36, p<.01) [上位<中位、上位<下位]と事前・事後 (F(1, 87)=6.46, p<.05) の主効果が有意。
→ライティングによるコミュニケーションを志向した教材を活用して行われた授業実践により有意にWA値が降下した。

因子合成得点による分析

因子1: Enjoyment of Writing

	基礎力上位		基礎力中位		基礎力下位	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
人数	20	20	50	50	20	20
平均	15.95	18.90	12.68	13.70	10.30	10.50
S.D.	5.68	6.02	6.18	5.91	6.38	5.08

“Enjoyment of Writing” について分散分析を行った結果、ライティングの基礎力(F(2, 87)=10.01, p<.01) 調査時期の主効果(F(1, 87) =6.78, p<.05) が有意。

因子合成得点による分析 因子2: Negative Perception about Writing

	基礎力上位		基礎力中位		基礎力下位	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
人数	20	20	50	50	20	20
平均	11.60	9.80	13.62	12.60	15.70	13.60
S.D.	4.55	4.22	3.92	3.69	2.53	4.06

“Negative Perception about Writing” について分散分析を行った結果、ライティングの基礎力($F(2, 87)=8.12, p<.01$)と調査時期($F(1, 87)=15.7, p<.01$)の主効果が有意。他の2因子には有意差なし。

「不安感」に対する教材の効果

- まとまりのある内容や考えをパラグラフ単位で書くような、ライティングによるコミュニケーションを志向した教材は、ライティングにおける不安感の緩和・軽減に効果的である。

→ “Enjoyment of Writing” を増大させ、“Negative Perception about Writing” を減少させる。

「不安感」に対する教材の効果

- 「コミュニケーションを志向した教材」により、文章として書く内容について自由に考えて書く」という活動に取り組むことは、書くことを通してコミュニケーションを行うことが中心になるので、“Enjoyment of Writing” が増大し、形式的側面に対する注意過多が緩和されるため“Negative perception about Writing Ability” が減少し、その結果としてWA値が低下するのではないか。

主要引用文献

- Cornwell, M., & McKay, T. (2000). Establishing a valid, reliable measure of writing apprehension for Japanese students. *JALT Journal*, 22, (1), 114-139.
- Daly, J.A., & Miller, M.D. (1975). The empirical development of an instrument to measure writing apprehension. *Research in the Teaching of English*, 9, (3), 242-249.
- 杉田由仁 & R.キャラクター (2007). 『パラグラフ・ライティング基礎演習 (Primary Course on Paragraph Writing)』 成美堂.